



有松まちづくりの会役員会（1月24日）

今後の有松の方向性についての一指針とすべく有松日本遺産事業として絞会館で開催される。

「シンポジウム(2/27)」「有松史料調査・保存の棚橋邸での成果報告会(2/5,6)」「福よせ雛さんぼ道(2/20~3/21)」などへの協力を申し合わせた。また、全国町並み連盟東海ブロック大会の有松での開催を11月26日(土)として企画部案を作成することとなった。

「世界ふしぎ発見！」に有松登場(1月8日)

1月8日放映「江戸の旅 東海道五十三次 令和の弥次喜多珍道中！」の回に有松が登場しました。TBSテレビのロケ隊が竹田嘉兵衛商店を訪れたのは11月13日(土)です。有松絞りの紹介後、伝統工芸士荒川泰代さんによる三浦絞りの実演が放映されました。(右写真)糸を解いて柄が現われると、スタジオで歓声があがっていました。



取材では岡家住宅にも訪れ、案内されたあないびとの会の皆さんと記念撮影をしました。

有松東海道日本遺産紹介処 故竹田耕三氏所蔵品 展示会行われる

昨年末、旧山田薬局の有松東海道日本遺産紹介処に立ち寄ると、有松の藍染め・絞り作家であった故竹田耕三氏が収集された絞り布片(実物裂)や浮世絵の一部が展示されていました。



旧山田薬局での展示風景

紙面を借りて竹田耕三氏の紹介をさせていただきます。

「竹田耕三さんの仕事なしに、現在の有松や絞りは語れない」と、皆さん一様に答えてくださいます。絞りの研究に一生を捧げた竹田耕三氏は、8代目竹田嘉兵衛氏の弟さん。20代の頃、京都の染色家に師事し絞り作家の活動を始められました。昔ながらの藍染めにこだわり、他の絞り職人の方々と協力しながら現代的な意匠の作品を数多く生み出されました。

木綿の浴衣を主とする有松絞りは、着られなくなると布きれに再利用されます。ですから、古いものは余り残っていません。耕三氏は、師と仰いだ絞り作家の故片野元彦氏から「今のうちに古い絞りを集めておかないと手遅れになる」と言われ、地元を回り収集したそうです。それらを基に、現在有松に伝承されている70余りの絞り技術を「日本の手絞り」という書物にまとめられました。これらの活動は、日本の手絞りの貴重な記録であるばかりでなく、今後染色を志す人にとっても指針になっているようです。

有松天満社 元旦祭 (1月1日~3日)

元日の9時頃、天満社を訪れました。名鉄線の踏切を渡り一の鳥居脇の大幟①を横目に境内の下の広場に来ると参拝者の姿が目に入ってきました。温かい日差しのもと、参拝を終えた家族連れが何やら語っています。他方、参道②を多くの参拝客が登って行きます。上の広場ではテントが張られ、授与品の販売やご祈祷の受付③が行われていました。反対側ではたき火④で暖を取っている人も少なくありません。文嶺講副総代長(当時)の鈴木章二さんに様子を伺うと「昨夜は大変寒かったが、参拝者は一昨年のように参道を埋め、下の広場にまで列が続いていました」と教えていただきました。人出は以前に戻ったようです。

ただ、オミクロン株の感染拡大防止に配慮して、例年拝殿前での参拝を行ってきましたが、今年は正門前⑤での参拝に変更されていました。多くの参拝客が間隔を空けて並んでいました。



左 ①幟 ②参道
中上③テント前の様子
中下④たき火
右⑤正門前の様子

文嶺講総会 (1月16日)

令和3年度有松天満社文嶺講の総会が絞会館で総代40数名の出席を得て開かれました。総代長竹田宗弘氏のあいさつの後、元旦祭収支報告や事業報告があり、最後に令和4年度の予算案が拍手で承認されました。今後、天満社の社殿修復や山車の補修で費用がかさむことの説明などもありました。

新総代長・副総代長は以下の通りに決まりました。

新総代長 鈴木章二 (第42代)
副総代長 西村明敏・鋤柄哲夫・加藤博紀
相談役 竹田宗弘



鈴木新総代長あいさつ

力を出し切って務めさせていただきます。
山車会館の運営協力もよろしくお願いいたします。

有松・鳴海絞会館のお宝①

絞会館のお宝の筆頭は、絞りによる「竹林豹虎図」です。

かつて名古屋城本丸御殿復元を祈願して制作されたもので、約20名の伝統工芸士の括り職人が虎や豹の輪郭や体の模様を見事に表現しています。



絞りの「竹林豹虎図」

絞り会館2階にて展示

ご存じのように「竹林豹虎図」は名古屋城本丸御殿の一の間・二の間にはめ込まれている障壁画です。竹林で虎の親子が戯れる様子が金箔と岩絵の具で描かれています。江戸時代前期に狩野派の絵師が手掛けました。1945年の空襲でも乃木倉庫に移されていたため焼失を免れました。

左義長（1月14日）

前夜からの雪が有松のまちを覆っている朝、左義長が行われている会場を訪ねました。

○ 東町の秋葉神社では

8時、氷の張った陸橋を渡り有松中学校東の秋葉神社に着きました。訪れる人はまばらですが、松飾りや前年の守り札などを持った地域の方がやってきていました。お神酒やお菓子が振る舞われていました。

世話をされている方のお一人本田雅己さんは「年ごとに参拝者が減ってきました。若い方に伝えていきたいけど、難しい時代になってきました」と話されていました。中町や西町では行われなくなったとのこと、東町では続けて行ってほしいと思いました。



○ 有松天満社では

9時、雪の残る上の広場に着きました。年末から年始にかけて参拝者が持ってこられた古札や注連縄などが次々と燃やされていました。時間がたつにつれ、参拝者が直接火にくべる様子も見られました。総代長の竹田宗弘さんは「年々参拝される方が増え、ありがたいことです」と、忙しそうに古札などを火にくべていました。



今年は名古屋グランパスエイトのクラブで代々使われていた応援旗などがここでお焚き上げされるとのこと。火のそばには応援に使われた大きなうちわも順番を待っていました。

今季30周年を迎える名古屋グランパス、長谷川新監督のもと、更なる活躍を願いましょう。



神功皇后車のこと 1

昨年为天満社秋季大祭の後、山車会館の展示車両が西町の神功皇后車に変わりました。

神功皇后車は有松にある3輛の山車の山車の中で制作年代が一番若いのですが、曳かれている年月が一番長いです。

明治6年(1873)に西町の有志が名古屋の大工久七に発注して制作されました。このため金具や衣裳に天満社の神紋である「梅鉢紋」がたくさん見られます。

当初は関羽のからくり人形が載っていましたが、日清戦争後に名古屋のからくり人形師土井新七が制作した神功皇后と武内宿禰と神官の3体に変っています。(続く)



左上:移動中 左下:関羽と梅鉢紋 右:展示中の様子

有松あないびとの会総会（1月18日）

絞会館にて、会員30数名の出席で総会が開催されました。

加藤明美会長より次のような挨拶がありました。

「会結成20年。皆さんと歩んできたことをしみじみと感じます。昨年は初代会長成田治さんが亡くなりました。コロナの影響もありました。たくさんのお客様を有松のまちにお迎えできるよう、皆さんと力を合わせていきたいと思えます。本来なら、20年を祝いたいのですがかないません。」

その後、2021年の事業報告や2022年の事業計画案の審議が行われ、総会後有松まちづくりの会会長竹田嘉兵衛氏の講演が行われました。



総会の様子

町並み案内で受けた質問から⑥ 有松あないびとの会 伊藤総俊

Q6「有松の町は空が広い」と言われるお客様が少なくありません。どうしてそのように感じるのでしょうか？

A6 土蔵と山車庫を除き、東海道に面する主屋は平入り（軒が道路と並行）となっており、街道に立って空を見上げるとYの字のように空が広がって見えます。



ゆるやかに曲がった東海道沿いの町並み



また、無電柱化事業(2013年竣工)で東海道から57本の電柱と縦横に走る電線が撤去され江戸の空が戻りました。緩やかに曲がった街道の流れも、通りの見通しを限定し町に落ち着きと奥行きを与えているようです。

第8回 日展名古屋展（1月26日~2月13日）

桶狭間の信長像・義元像の製作者 工藤潔さんが
文部科学大臣賞を受賞。

愛知県美術館ギャラリーに受賞作品が出品されています。是非ともお立ち寄り頂きご覧いただければと思います。



催事・行事の予定

* 有松日本遺産推進協議会

- 2月1日(火)~6日(日) 10:00~17:00 有松絞りまちなみ美術館 竹田家住宅・旧山田薬局他 *
- 2月5日(土)・6日(日) 10:00~16:00 有松史料調査研究発表会 棚橋家住宅 *
- 2月6日(土) 18:00 有松絞りアートライブ 竹田家三番蔵 コンソーシアム有松
- 2月20日(日)~3月21日(月・祝) 有松福よせ雛さんぽみち 有松東海道一帯 同実行委員会
- 2月21日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン
- 2月27日(日) 07:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
- 2月28日(月) 10:30~おこしもんづくり カフェ庄九郎 コンソーシアム有松
- 2月28日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

発行者: 竹田嘉兵衛 (有松まちづくりの会 会長)

編集者: 加藤 明美 (有松まちづくりの会 広報部員)

HP: pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索

